

栃木県農業大学校 令和7年度学校評価 シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメントと回答
		評価指標		学部・塾	内容				
3 進路指導の強化	<p>(現状)</p> <p>○R6 農業生産学部の雇用を含めた就農率（研修後就農を含む）は、前年より約2ポイント上昇し、42.6%となった。                      なお、進路決定率は98.6%であった。                      ○未来塾研修修了生（専門研修コース）の農業従事率は92.8%であった。                      ○R6 就農を希望する学生の就農実現率は100%（29名/29名）であった。                      ○生産学部卒業生の雇用を含めた就農率（研修後就農を含む）は各、コースによって較差が大きく、全体的には低迷傾向にある。                      ○全入学者に占める非農家出身の学生の割合は 6割を超えている。                      ○雇用就農を希望する学生も増加しているが、畜産部門では農業法人からの求人は多いが、その他は少なく、希望する部門と求人が必ずしもマッチしない。</p> <p>(課題)</p> <p>●農業大学校の設置目的を踏まえ、就農への誘導等にしっかりと取り組み、就農率の向上を図る必要がある。                      ●非農家出身者でも就農や農業関係団体への"就職に強い進学先"としての評価を高めるため、進路決定率100%を達成していく必要がある。</p>	<p>進路</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業生産学部 就農率計 60%</li> <li>・進路決定率 100%</li> </ul> <p>(就職率、農業関連団体・企業就職率)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来塾 専門研修修了生 農業従事率 80%</li> <li>・就農実現率 80%</li> </ul> <p>(就農を目指し入学した学生のうち就農出来た者の割合)</p>	(1)進路希望の把握と的確な進路指導	生産学部 経営学部 未来塾	<p>○個別面談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生に対する早期面談の実施(4～5月)</li> <li>・学生の希望や特性に応じた就農、就職活動の個別支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生入学直後に個人面談を実施し、進路希望を早期把握(4、5月)</li> <li>・先進的経営体実習終了後に個人面談を実施し、進路希望の明確化と就農意欲醸成(10月)</li> <li>・1年生就農希望者は就農コーディネーターと面談(1～2月)し、円滑な就農支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業生産学部 農業経営学部 就農率 53.1%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き個人面談を早期から複数回行い、将来設計を明確化し、進路希望に添った支援をしていく。</li> </ul>	<p>・未来塾生と振興事務所の担当者との面談は、就農に向けたスムーズな調整を行うため、面談を強化すべき。</p> <p>→これまで以上に農業振興事務所との連携を強化し、面談も行っていきたい。</p>
		<p>○就職率、農業関連団体・企業就職率)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来塾 専門研修修了生 農業従事率 80%</li> <li>・就農実現率 80%</li> </ul> <p>(就農を目指し入学した学生のうち就農出来た者の割合)</p>	<p>○就農希望者への支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生を対象とした雇用就農理解促進研修会等の開催(11月)</li> <li>・2年生を対象とした雇用就農求人先とのマッチング支援</li> </ul> <p>○4年制大学等への編入希望者に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・願書作成及び面談指導等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用就農理解促進研修会の開催(11月、農業法人19社参加)及び参加経営体へのフィードバック</li> <li>・雇用就農を希望する学生ヘイターン、マッチング支援(前期23、後期15件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に対する取組は就農希望者にとって有効であったことから、引き続き雇用就農理解促進研修会を実施</li> <li>・優良農業法人への雇用就農を継続して推進</li> </ul>			
				<p>○資格取得の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業機械基本実習Ⅰ、Ⅱ実施</li> <li>・資格取得教養講座(毒劇物取扱者、ワープロ検定、英会話、危険物取扱者及び商業簿記、ガス溶接研修、家畜人工授精師養成講習等)実施</li> <li>・資格取得研修(フォークリフト、アーク溶接、ガス溶接)の受講調整等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに従い各実習を実施(農業機械基本実習、資格取得教養講座(毒劇物取扱者、ワープロ検定、英会話、危険物取扱者、商業簿記、情報処理技能検定、家畜人工授精師養成講習等))</li> <li>・資格取得研修の紹介と斡旋(フォークリフト・アーク溶接・ガス溶接研修)→それぞれ合格率100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(就職率) 43.8%、うち農業関連団体・企業就職率 76%</li> <li>・就農実現率 92%</li> <li>・(就農34名/入学時就農希望37名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する大学名を早期に把握し、過去問を提供する等、受験対策を指導する。</li> <li>・就農後に役立つ資格、就職に有利な資格取得を引き続き支援する。</li> <li>・新たな資格取得実習を準備中：車両系建設機械(整地等)運転、刈払機取扱作業</li> </ul>		
			(2)就農イメージの早期確立	<p>○就農促進講座等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業振興事務所と連携した就農支援を行う就農促進研修会の開催(6月)</li> <li>・卒業生を講師に迎える就農促進シンポジウムの開催(7月)</li> <li>・先進的経営体実習の実施(8月下旬から1ヶ月間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農促進研修会を開催し、就農(または研修)希望地を管轄する農業振興事務所及び当校と学生との3者面談を実施(6月、1年生全員)</li> <li>・就農促進シンポジウムを開催し、就農・雇用就農した卒業生と学生との意見交換等を実施(7月、1年生全員)</li> <li>・先進的経営体実習を62経営体で実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来塾 専門研修修了生 農業従事率 70.5%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業振興事務所との情報共有や学生の就農に対する具体的なイメージを醸成するため、引き続きこれらの事業を実施する。</li> </ul>		

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会 からのコメントと回答
				学部・塾	内容				
<p>●就職活動については、農業法人や企業等と連携を密にし、学生に対する支援を積極的に行う必要がある。</p> <p>●就職であっても将来的にUターン就農されるよう、意識付けを図っていくことが必要と考えられる。</p> <p>●就農する学生・塾生に対しては農業振興事務所及び就農コーディネーターと連携した営農設計書作成支援や農地確保など、農大内外での協力支援が必要である。</p>			(3)雇用就農等斡旋機能の強化	生産学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業法人等へのアプローチ</li> <li>・求人を希望する農業法人等に対する雇用就農理解促進研修会のPR（10月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（再掲）</li> <li>・雇用就農理解促進研修会の開催（9月、19社）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・優良な農業法人の研修会参加を勧誘を続けるとともに、学生のインターンシップ参加を促し、雇用就農を支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優良な農業法人からの求人を増やす手法として、現状の振興事務所に加え、県農業法人協会、県経営者協会等と連携するとよい。</li> </ul>
					<ul style="list-style-type: none"> <li>○求人情報等の充実</li> <li>・就職先情報データの一元管理</li> <li>・Google Classroomを活用した学生への求人情報の迅速提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人情報のデータベース化</li> <li>・学生へ求人情報の提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース化を継続し、進路指導室では学生が求人情報を見つけやすい支援を行う。</li> </ul>	
					<ul style="list-style-type: none"> <li>○雇用就農・就職支援</li> <li>・農業振興事務所等と連携し、雇用を希望する農業法人の情報収集</li> <li>・面談等による雇用就農希望者の把握と受入農業法人等とのマッチング支援</li> <li>・農業関連企業を主とした企業説明会の開催</li> <li>・農業法人経営者を招いた雇用就農理解促進研修会の開催（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各農振から求人情報提供募集→新たに4つの農業法人から求人を獲得（合計30法人）</li> <li>・R6開催雇用就農理解促進研修会参加法人と2年生とのマッチング（6社、6名）</li> <li>・4回にわたり開催した企業説明会参加の企業へ就職内定（5名）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農率の向上には、雇用就農求人先の増加が必要であるため、農業振興事務所や農業会議との連携を強化して優良農業法人からの求人を増やしていく。</li> </ul>	
				生産学部 経営学部 未来塾	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業振興事務所や関係機関との連携による就農支援</li> <li>・農振事務所担当との面談や就農支援会等によるオーダーメイド型就農支援の実施</li> <li>・就農希望者の就農コーディネーターとの面談実施</li> <li>・情報の共有ツール（Back log）を活用した就農支援</li> <li>・営農設計等の授業内で「我が家の営農設計」作成指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来塾研修生は年度当初に農業振興事務所担当と面談、更に就農コーディネーターとの面談を実施。面談結果を各農業振興事務所と共有</li> <li>・未来塾はBack logを活用し、産地と研修生の情報を共有</li> <li>・いちご学科では学生の就農までのロードマップを作成、就農準備の優先順位を整理、進捗状況を共有し就農を支援</li> <li>・農業士会いちご部会研修会に参加し、学生情報の共有化（11月10日）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農に向けて個々の課題を農業振興事務所や関係機関と共有し、円滑に就農できるよう支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→連携を強化したい。</li> </ul>